

# 中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

平成25年10月～12月 実績

平成26年 1月～ 3月 見通し

福井県商工会連合会

## I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井北、福井東、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100%）
6. 調査対象期間 平成25年10～12月期実績及び平成26年1～3月期見通し
7. 調査時点 平成25年11月15日（金）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.6%	24	14.6%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

### 9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について〈増加・上昇・好転〉の割合から

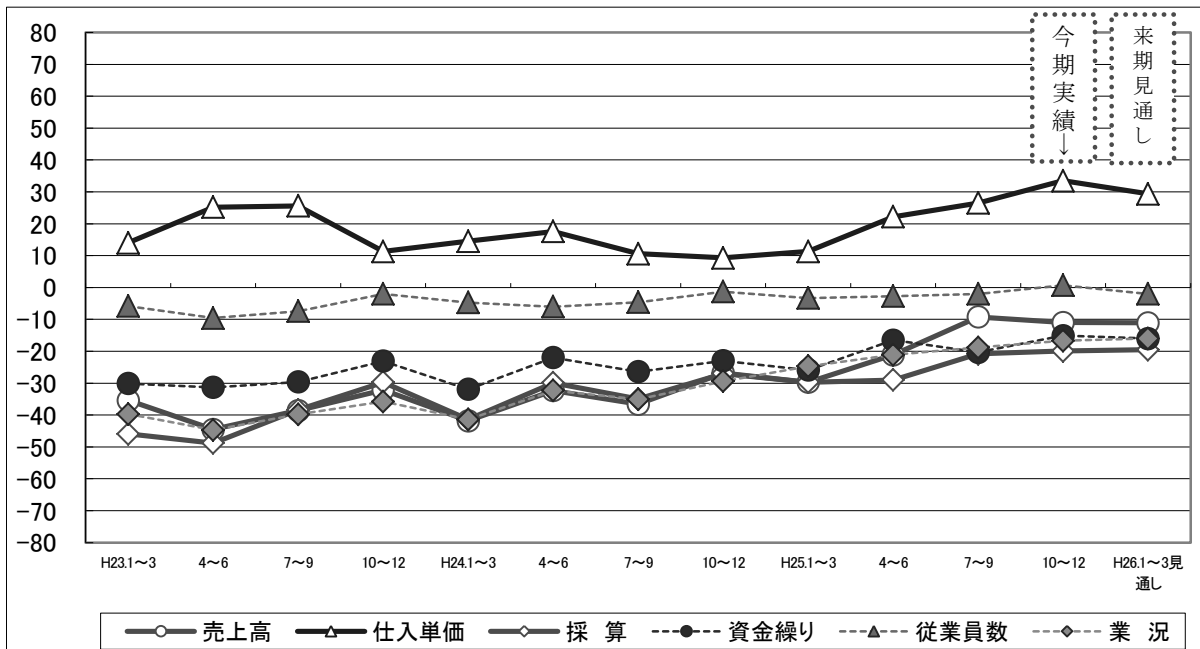
DI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

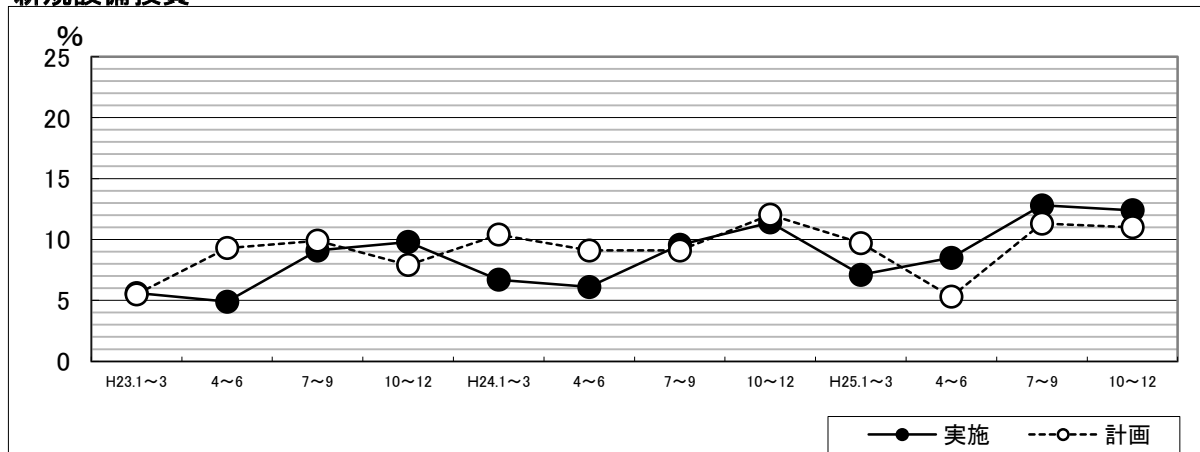
## 全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向推移(前年同期比:DI値)

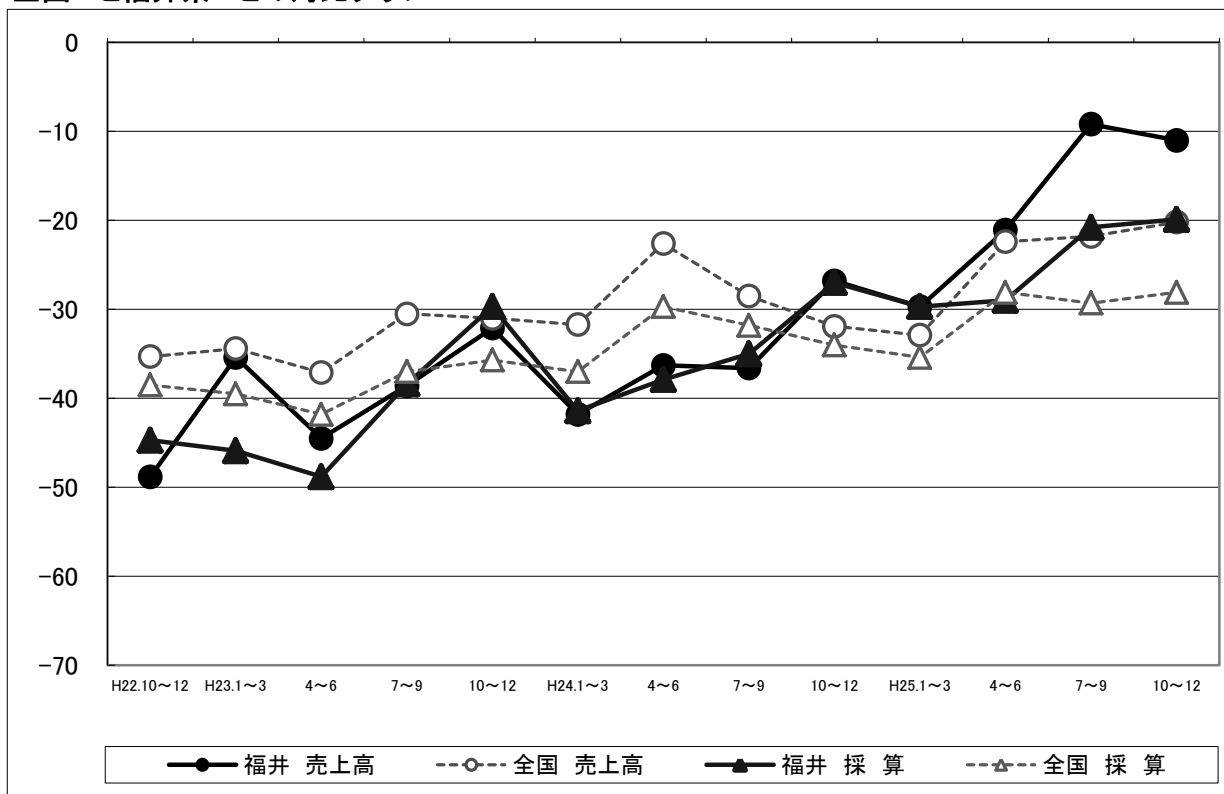
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H23.1~3	▲ 35.4	14.0	▲ 45.9	▲ 30.1	▲ 5.8	▲ 39.7
4~6	▲ 44.5	25.2	▲ 48.8	▲ 31.3	▲ 9.6	▲ 44.7
7~9	▲ 38.6	25.6	▲ 38.4	▲ 29.6	▲ 7.4	▲ 39.8
10~12	▲ 32.1	11.3	▲ 29.7	▲ 23.1	▲ 2.0	▲ 35.8
H24.1~3	▲ 41.8	14.5	▲ 41.4	▲ 31.9	▲ 4.7	▲ 41.4
4~6	▲ 32.3	17.6	▲ 29.9	▲ 22.0	▲ 6.0	▲ 32.3
7~9	▲ 36.6	10.6	▲ 35.0	▲ 26.4	▲ 4.6	▲ 35.1
10~12	▲ 26.8	9.3	▲ 27.0	▲ 23.0	▲ 1.3	▲ 29.4
H25.1~3	▲ 29.7	11.3	▲ 29.7	▲ 25.9	▲ 3.3	▲ 24.7
4~6	▲ 21.1	22.2	▲ 29.0	▲ 16.5	▲ 2.7	▲ 21.1
7~9	▲ 9.2	26.5	▲ 20.8	▲ 20.3	▲ 2.0	▲ 18.8
10~12	▲ 11.0	33.5	▲ 19.9	▲ 15.1	0.7	▲ 16.7
H26.1~3見通し	▲ 11.1	29.4	▲ 19.5	▲ 16.0	▲ 2.0	▲ 16.0



### 新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

平成25年10-12月期の福井県経済を概観すると、全国同様、「持ち直し」から「回復」の動きを強めるなど、域内経済情勢は総じて堅調な動きを示している。ちなみに、企業活動面では、円安を背景として輸出産業中心に生産増加や設備投資の改善、それに伴う収益環境の持ち直しが進んでいる。また、家計面でも、大型店売上高が前年比プラス水準で推移していることや住宅投資の増加基調など、株価上昇による資産効果や消費者マインドの改善を通じ、消費の持ち直し感を顕在化させている。ただ、福井地域の場合、内需型企業を中心とした中小・零細企業レベルでの景気回復がまだまだ弱く、また、4月以降の消費税率アップによる需要停滞を考慮すると、いましばらくは模様眺めの状況が続くものと見るべきであろう。

こうした中、今期（H25年10-12月期）の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目のうち、売上高（前期▲9.2→今期▲11.0）、仕入れ単価（逆指数）（前期26.5→今期33.5）を除く4項目で改善傾向を示している。ちなみに、採算が前期▲20.8から今期▲19.9へ、資金繰りが前期▲20.3から今期▲15.1へ、従業員数が前期▲2.0から今期0.7へ、業況が前期▲18.8から今期▲16.7へと改善した。また、来期（平成26年1-3月期）の見通しについては、資金繰りと従業員数の2項目で悪化傾向となっているほか、売上も弱気な横ばい（1~3月見通し：0.1ポイントマイナス）となっており、地域中小企業の景況はいまだ楽観できない状況にあることがうかがえる。

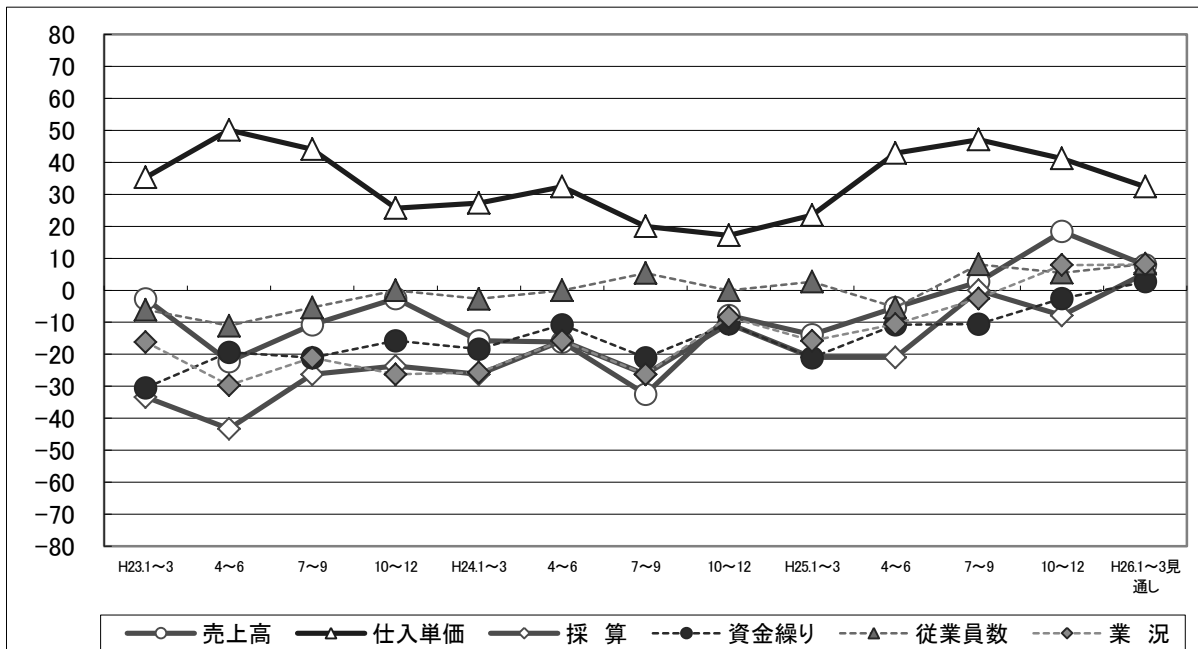
また、売上高と採算について、そのDI値を全国と比較すると、全国の場合、売上高（前期▲21.8→今期▲20.2）、採算（前期▲29.3→今期▲28.1）ともに改善となっているものの、福井県の場合、採算は改善したものの売上高が悪化しており、全国と比較し景況感に若干の開きがあることがうかがえる。

一方、今期の新規設備投資実施状況については、計画の11.0%に対して実施が12.4%となり、実施が計画を上回っている。また、先行き（H26年1-3月期）については、9.8%の企業で何らかの設備投資を計画している。

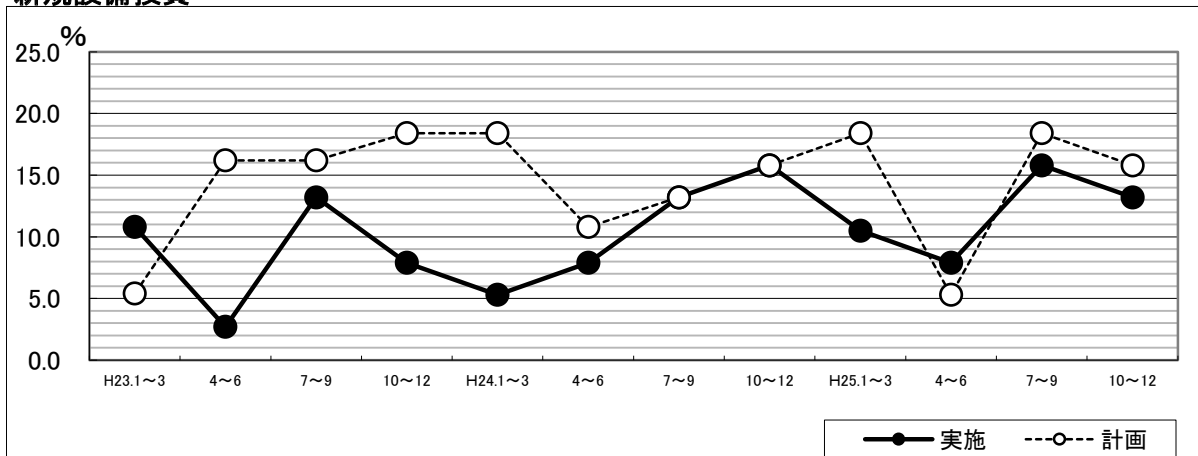
## 製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向(前年同期比:DI値)

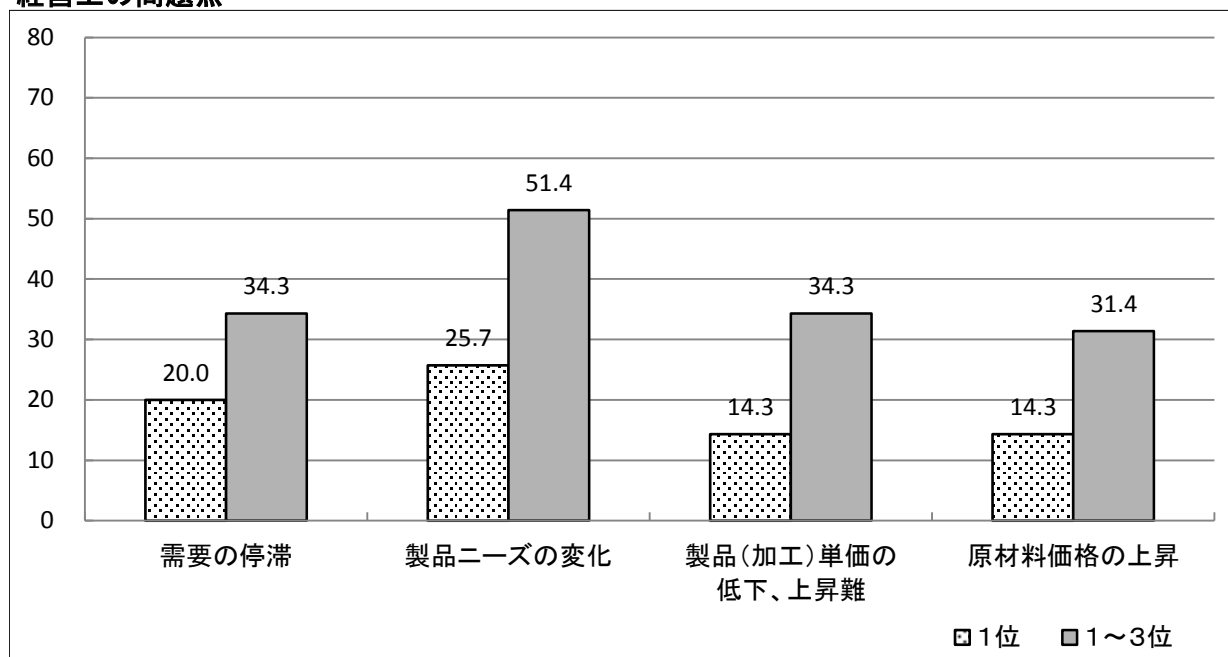
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H23.1~3	▲ 2.7	35.3	▲ 33.4	▲ 30.5	▲ 6.1	▲ 16.2
4~6	▲ 22.3	50.1	▲ 43.3	▲ 19.4	▲ 11.1	▲ 29.7
7~9	▲ 10.8	44.1	▲ 26.3	▲ 21.1	▲ 5.4	▲ 21.1
10~12	▲ 2.6	25.7	▲ 23.7	▲ 15.8	0.0	▲ 26.3
H24.1~3	▲ 15.8	27.3	▲ 26.3	▲ 18.4	▲ 2.7	▲ 25.7
4~6	▲ 16.2	32.4	▲ 15.8	▲ 10.8	0.0	▲ 15.8
7~9	▲ 32.5	20.0	▲ 26.3	▲ 21.1	5.4	▲ 26.3
10~12	▲ 7.9	17.2	▲ 10.5	▲ 10.5	0.0	▲ 8.4
H25.1~3	▲ 13.9	23.5	▲ 21.0	▲ 21.1	2.7	▲ 15.8
4~6	▲ 5.4	42.9	▲ 21.0	▲ 10.8	▲ 5.4	▲ 10.6
7~9	2.7	47.1	0.0	▲ 10.6	8.1	▲ 2.6
10~12	18.4	41.2	▲ 7.9	▲ 2.6	5.5	7.9
H26.1~3見通し	7.9	32.4	5.4	2.7	8.3	8.1



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・ 原材料は輸入品を利用しているため、円安によりとても不安定な状況にある。今後円高になる気配もなく悲観している。
- ・ 繊維製品の新作が例年より種類、数量ともに増加している。発注量も増加傾向にある。

## 製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、円安傾向を映じ、輸出産業中心に概ね堅調な受注・生産動向を維持している。業種別では、引き続き繊維、眼鏡枠などの地場産業で弱い動きとなっているものの、電子部品・デバイスはスマートフォン向けを中心に順調に推移しているほか、化学も化粧品、医療用キャビネット・カートや医薬品分野（ジェネリック医薬品）などで創業度合い引きを上げている。また、一般機械も産業機械をはじめ金属工作機械などで引き合いが増加するなど、総じて回復感強い。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目中、採算（前期0.0→今期▲7.9）と従業員数（前期8.1→今期5.5）を除く4項目で改善傾向を示した。項目別では、売上高が前期2.7→今期18.4と大幅改善、仕入単価（逆指数）が前期47.1→今期41.2、資金繰りが前期▲10.6→今期▲2.6、業況が前期▲2.6→今期7.9となっている。この結果から、確かに県内製造業の業況は改善傾向にあり売上高が伸びているものの、仕入れ単価の高止まりから、採算悪化が課題となっていることが分かる。また、先行き（H26年1-3月期）については、6項目のうち売上高を除く5項目で改善予測となっており、今後も景気回復に対する期待感が比較的大きいことがうかがえる。

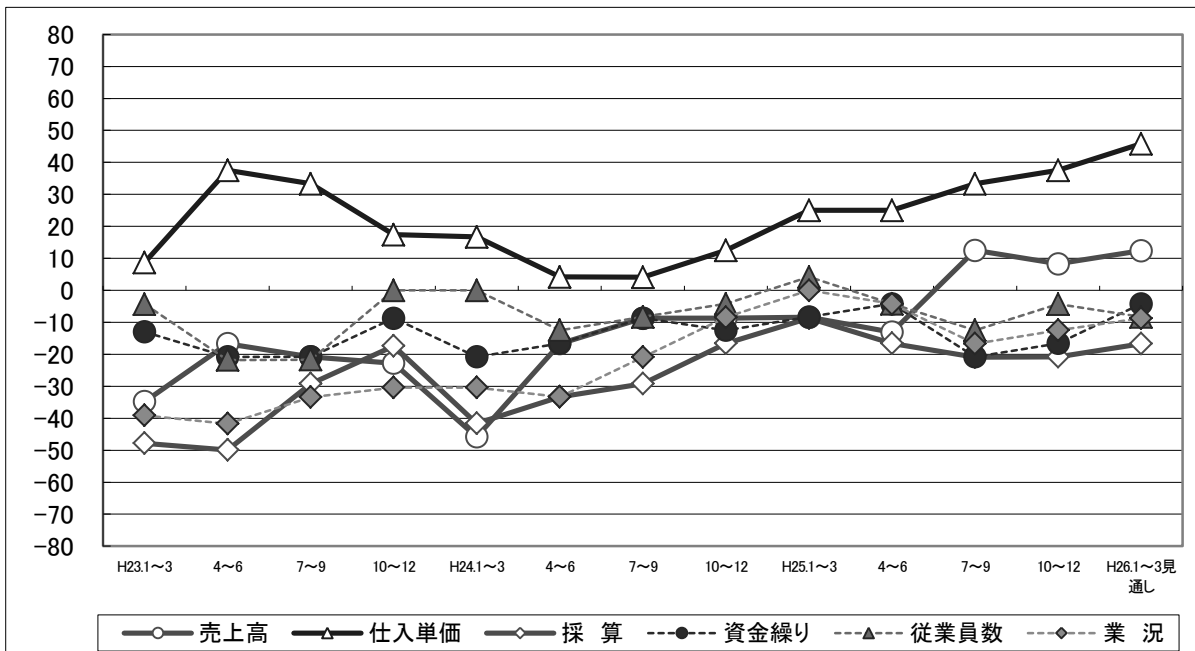
一方、今期の新規設備投資実施状況については、計画15.8%に対し、実施が13.2%となり、実施が計画を下回ったものの、その勢いは強い。また、先行き（H26年1-3月期）についても13.2%の企業で何らかの設備投資を計画している。

経営上の問題点については、「製品ニーズの変化」への指摘が、1位に挙げた企業ウエイト25.7%、1位～3位までに挙げた企業ウエイト51.4%と最も多くみられた。次いで、「需要の停滞」への指摘が、1位に挙げた企業ウエイト20.0%、1位～3位までに挙げた企業ウエイト34.3%と続いている。その他、「製品(加工)単価の低下、上昇難」への指摘は、1位に挙げた企業ウエイト14.3%、1位～3位までに挙げた企業ウエイト34.3%となったほか、「原材料価格の上昇」への指摘が、1位に挙げた企業ウエイト14.3%、1位～3位までに挙げた企業ウエイト31.4%みられた。

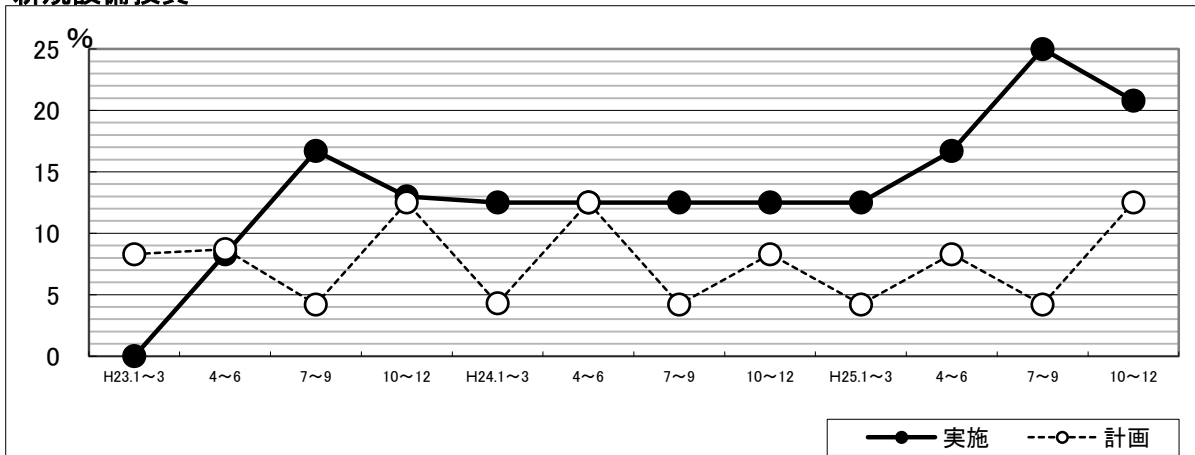
## 建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向(前年同期比:DI値)

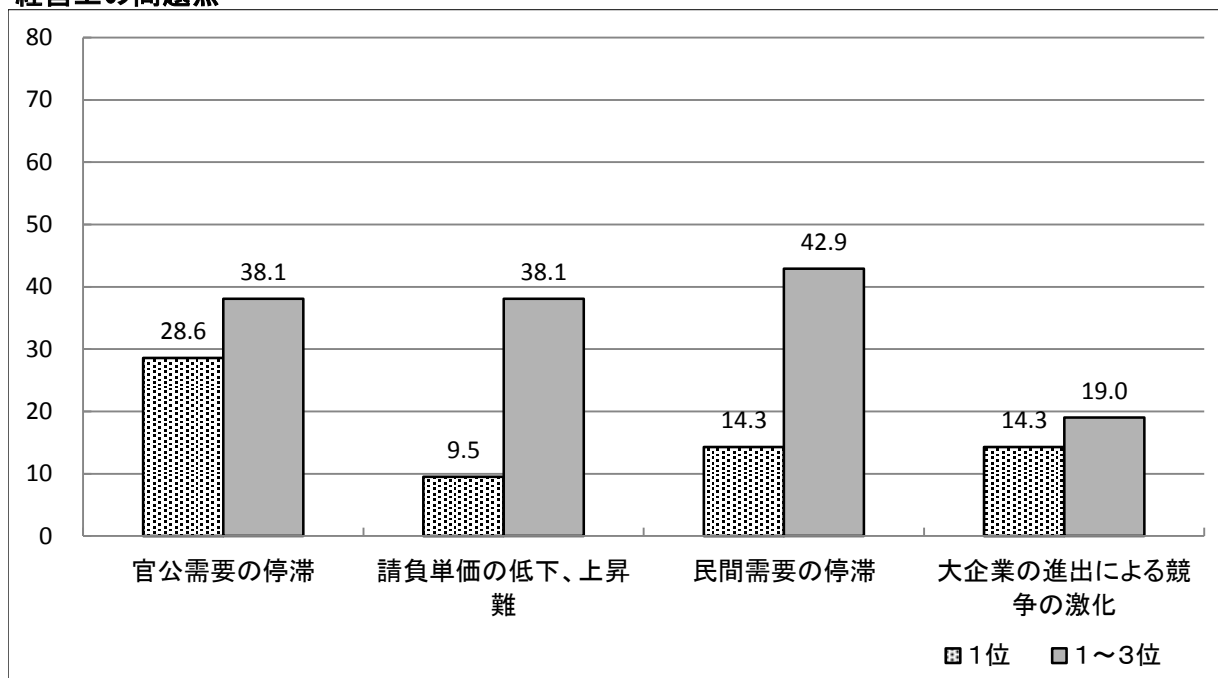
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H23.1~3	▲ 34.8	8.7	▲ 47.8	▲ 13.0	▲ 4.3	▲ 39.1
4~6	▲ 16.7	37.5	▲ 49.9	▲ 20.8	▲ 21.8	▲ 41.7
7~9	▲ 20.8	33.3	▲ 29.2	▲ 20.8	▲ 21.7	▲ 33.4
10~12	▲ 22.8	17.4	▲ 17.4	▲ 8.7	0.0	▲ 30.4
H24.1~3	▲ 45.8	16.7	▲ 41.6	▲ 20.8	0.0	▲ 30.4
4~6	▲ 16.7	4.2	▲ 33.3	▲ 16.6	▲ 12.5	▲ 33.3
7~9	▲ 8.7	4.1	▲ 29.2	▲ 8.7	▲ 8.3	▲ 20.9
10~12	▲ 8.7	12.5	▲ 16.6	▲ 12.5	▲ 4.2	▲ 8.4
H25.1~3	▲ 8.4	25.0	▲ 8.7	▲ 8.3	4.2	0.0
4~6	▲ 13.1	25.0	▲ 16.6	▲ 4.2	▲ 4.2	▲ 4.2
7~9	12.5	33.3	▲ 20.9	▲ 20.8	▲ 12.5	▲ 16.7
10~12	8.3	37.5	▲ 20.8	▲ 16.6	▲ 4.3	▲ 12.5
H26.1~3見通し	12.4	45.8	▲ 16.7	▲ 4.2	▲ 8.3	▲ 8.7



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・受注量が多いが、来春以降の落ち込みが見えているために人材確保が難しい。また、前期までの単価落ち込みから回復せず、材料費は高騰したままであり、採算は厳しい。
- ・材料価格の上昇を請負金額に転嫁しにくい。

## 建設業の景況

福井県内における平成25年10 - 12月期の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は、10 - 12月期累計で208億22百万円の前年同期比7.5%減、発注件数では同1,040件の同9.6%の増加となった。これを発注者別でみると、国家工事及び県関連工事が請負金額、発注件数ともに減少し、特に県関連工事は78億61百万円の同15.7%減発注件数441件の同2.4%減と落ち込みが大きい。

また、住宅投資については、平成25年4月から平成25年11月までの累計で、前年同期比27.0%増の3,286戸と、消費増税前の駆け込み需要を大きく映じた結果となっている。利用関係別では、主力の持家が前年同期比29.2%増の2,311戸、貸家が同15.7%増の650戸であった。

こうした中で今回の景況調査も、景況感を示すDI値6項目中、売上高（前期12.5→今期8.3）と仕入単価（逆指数）（前期33.3→今期37.5）を除く4項目で改善傾向を示している。ちなみに、各項目の指数をみると、採算が前期▲20.9→今期▲20.8、資金繰りが前期▲20.8→今期▲16.6、従業員数が前期▲12.5→今期▲4.3、業況が前期▲16.7→今期▲12.5へと改善している。また、先行き（H26年1-3月期）についても、仕入れ単価と従業員数を除く4項目で改善予測が立てられている。

一方、新規設備投資については、計画の12.5%に対し、実施が20.8%と、実施が計画を大きく上回った。また、来期（H26年1-3月期）の見通しについても16.7%の企業が何らかの投資を計画している。

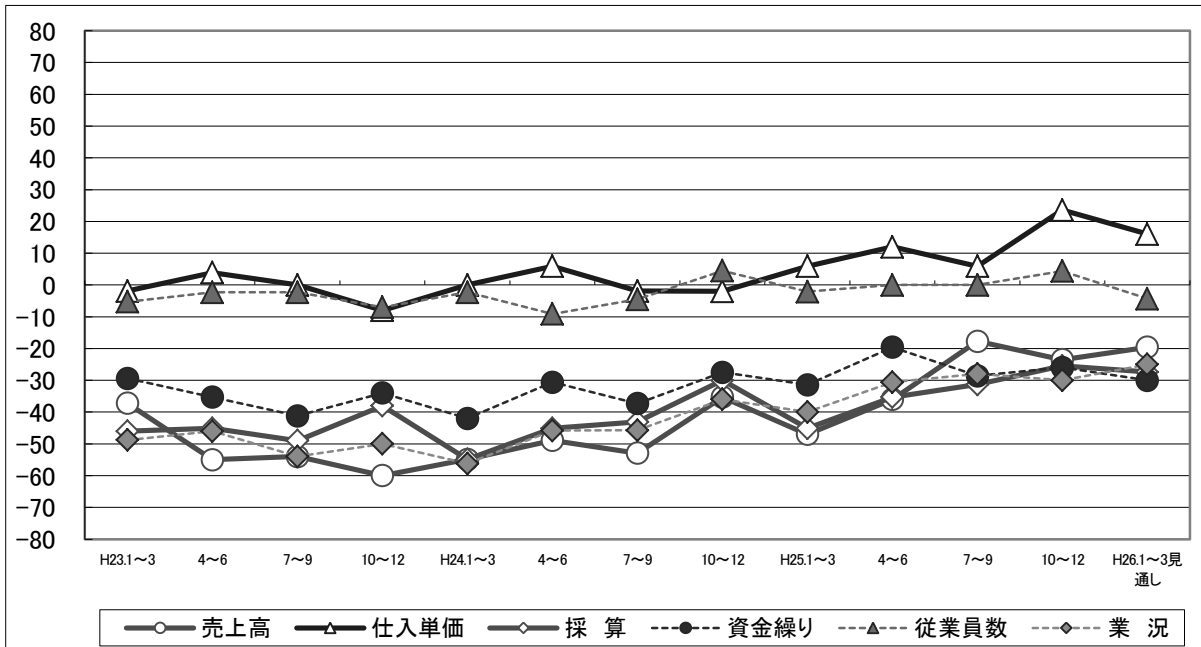
最後に、経営上の問題点については、前回と同様に「官公需要の停滞」を1位に挙げる企業ウエイトが28.6%を占め最多となった。ただ、1位～3位に挙げた企業ウエイトでは「民間需要の停滞」への指摘が最も多く42.9%に達している。その他、「請負単価の低下、上昇難」への指摘は、1位に挙げた企業ウエイト9.5%、1位～3位に挙げた企業ウエイト38.1%であったほか、「大企業の進出による競争の激化」への指摘も、1位に挙げた企業ウエイト14.3%、1位～3位に挙げた企業ウエイト19.0%みられたが、総じて、各項目とも前回と比較しそのウエイトは低く、全体として需要増加から経営課題の低下傾向がうかがえた。



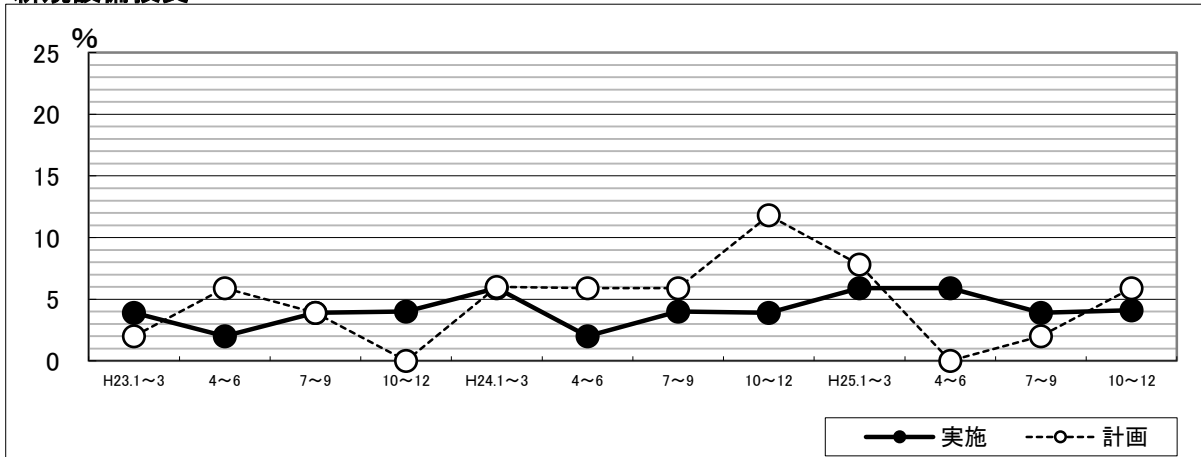
## 小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向(前年同期比:DI値)

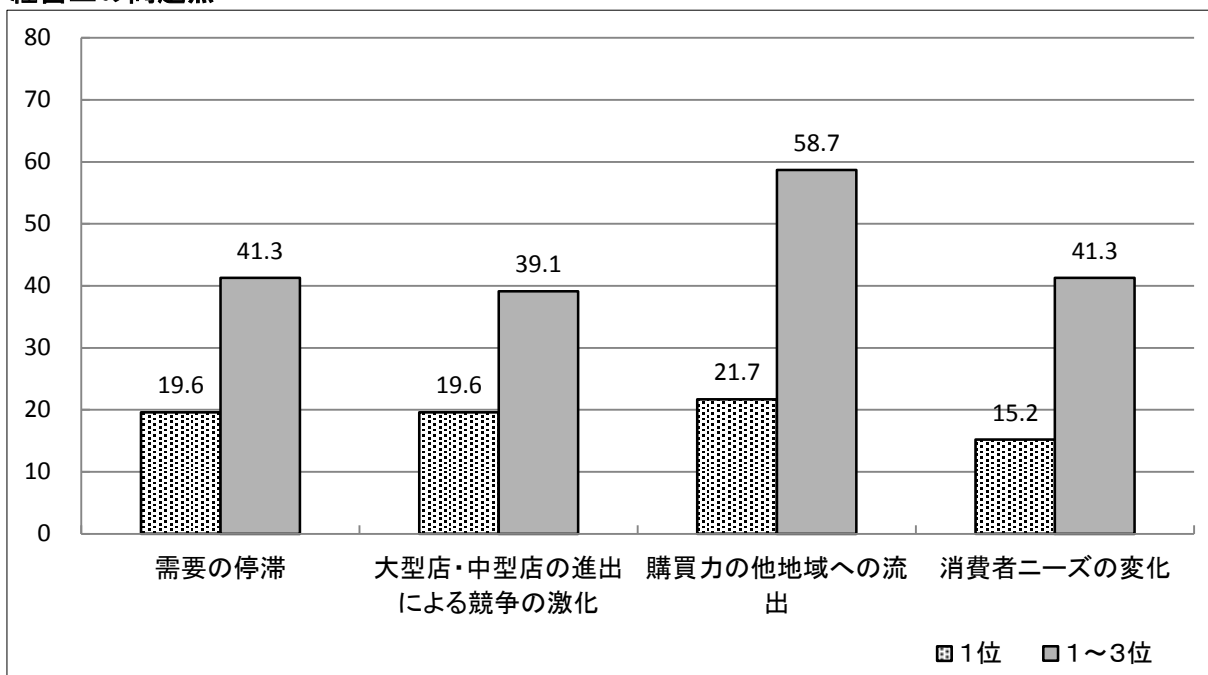
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H23.1~3	▲ 37.2	▲ 1.9	▲ 46.0	▲ 29.4	▲ 5.3	▲ 48.8
4~6	▲ 55.0	3.9	▲ 45.1	▲ 35.3	▲ 2.3	▲ 46.0
7~9	▲ 54.0	0.0	▲ 49.0	▲ 41.2	▲ 2.3	▲ 54.0
10~12	▲ 60.0	▲ 8.0	▲ 38.0	▲ 34.0	▲ 7.0	▲ 50.0
H24.1~3	▲ 54.9	0.0	▲ 54.9	▲ 42.0	▲ 2.3	▲ 56.2
4~6	▲ 48.9	5.9	▲ 45.1	▲ 30.6	▲ 9.1	▲ 45.8
7~9	▲ 52.9	▲ 1.9	▲ 43.1	▲ 37.3	▲ 4.5	▲ 45.7
10~12	▲ 35.3	▲ 2.0	▲ 30.0	▲ 27.5	4.5	▲ 36.0
H25.1~3	▲ 47.0	5.9	▲ 45.1	▲ 31.4	▲ 2.1	▲ 40.0
4~6	▲ 36.0	12.0	▲ 35.3	▲ 19.6	0.0	▲ 30.6
7~9	▲ 17.7	5.9	▲ 31.3	▲ 28.6	0.0	▲ 28.0
10~12	▲ 23.5	23.6	▲ 25.5	▲ 26.0	4.4	▲ 30.0
H26.1~3見通し	▲ 19.6	16.0	▲ 27.4	▲ 30.0	▲ 4.3	▲ 25.0



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・期待以上の需要が続き、今期から来期にかけて好調を維持していきたい。
- ・購買力が未だ低く、高額商品の売れ行きもいまひとつ。来年の消費税増税に伴う一時的な購買力の上昇に期待している。

## 小売業の景況

近畿経済産業局が発表する県内大型小売店販売額状況（百貨店＋スーパー、全店ベース）をみると、平成25年1-11月累計で663億48億円の前年同期比3.1%増と堅調な動きを示している。ちなみに、品目別の動きをみると、衣料品が不冴えながら、白物などの家電品や高額商品も堅調な売上の伸びを示したほか、クリスマス・年末商戦もアクセサリなどで高額品に動きがみられた。消費マインドは、円安、株高を背景とした資産効果や足元の雇用環境改善の動きを受け、今暫く持ち直しの動きを続けるものと思われる。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示す6項目のDI値のうち売上高（前期▲17.7→今期▲23.5）、仕入単価（逆指数）（前期5.9→今期23.6）、業況（前期▲28.0→今期▲30.0）でポイントを落とすなど、想定外の悪化傾向となった。また、改善を示した3項目についても、採算が前期▲31.3→今期▲25.5、資金繰りが前期▲28.6→今期▲26.0、従業員数が前期0.0→今期4.4と改善幅は小さい。また、今後の見通し（H26年1-3月期）についても、採算、資金繰り、従業員数の3項目で悪化予測となっている。

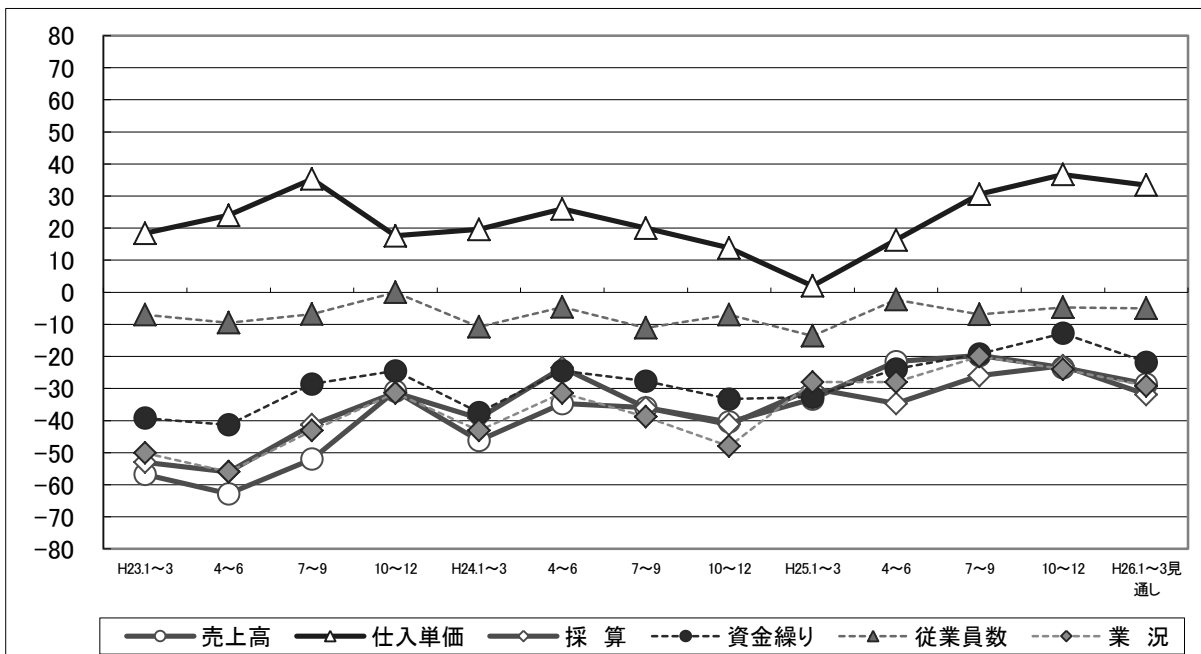
一方、新規設備投資については、今期の計画5.9%に対し4.1%の企業が実施している。また、先行き（H26年1-3月期）についても、計画している企業が2.0%にとどまるなど、引き続き低調な投資環境が予想される。

最後に、経営上の問題点については、「購買力の他地域への流出」への指摘が、1位に挙げた企業ウエイト21.7%、1位～3位に挙げた企業ウエイト58.7%で最多となっている。その他の問題については、大きな開きがみられず、「需要の停滞」及び「大型店・中型店の進出による競争の激化」への指摘で、1位に挙げた企業ウエイト（19.6%）が同率となったほか、「消費者ニーズの変化」への指摘は、1位に指摘した企業ウエイトが15.2%に止まったものの、1位～3位の企業ウエイトは41.3%と比較的多い。これらの結果から、多様な課題を抱える小売業界の経営環境がうかがえる。

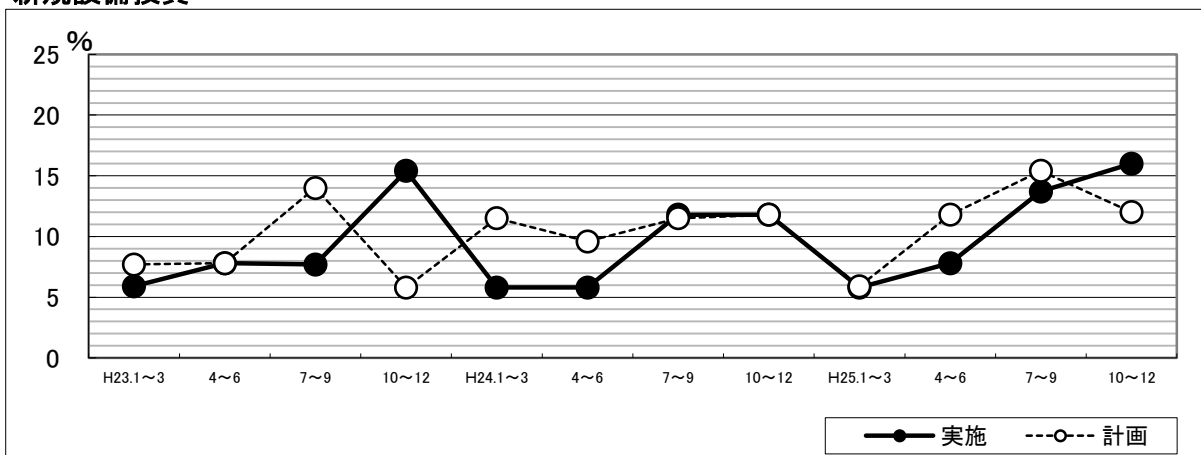
## サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向(前年同期比:DI値)

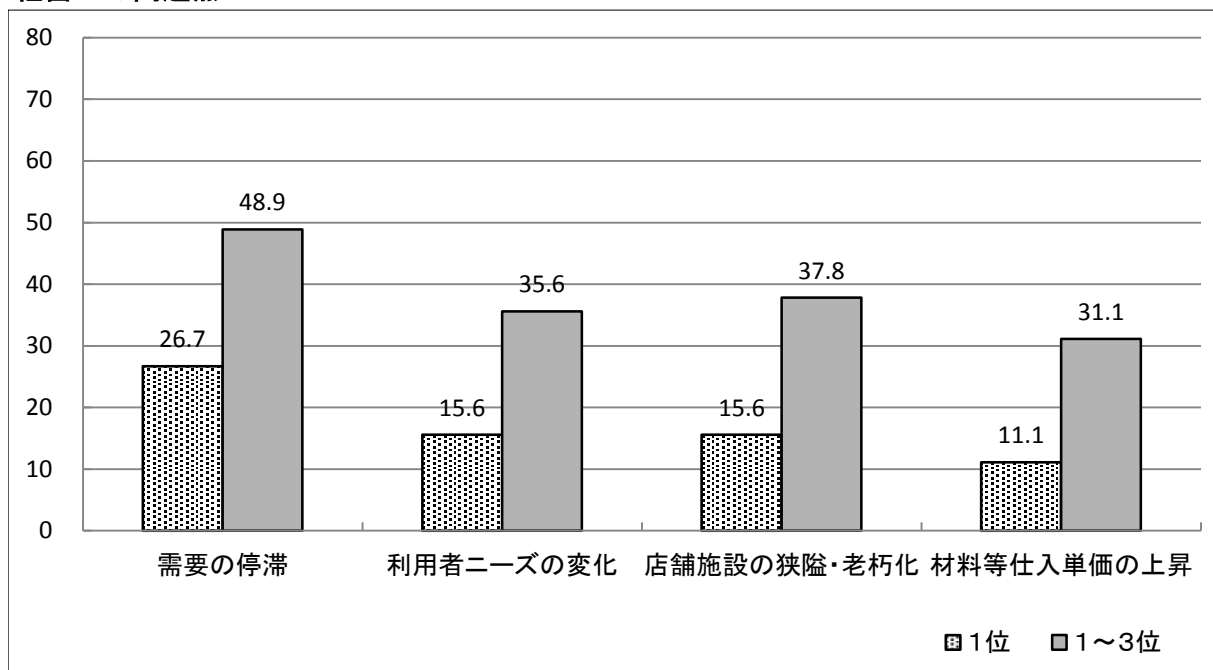
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H23.1~3	▲ 56.8	18.4	▲ 53.0	▲ 39.2	▲ 7.0	▲ 50.1
4~6	▲ 62.8	24.0	▲ 56.0	▲ 41.3	▲ 9.5	▲ 56.0
7~9	▲ 52.0	35.3	▲ 41.3	▲ 28.6	▲ 6.8	▲ 43.1
10~12	▲ 30.8	17.6	▲ 31.3	▲ 24.5	0.0	▲ 31.4
H24.1~3	▲ 46.2	19.6	▲ 39.2	▲ 37.5	▲ 10.8	▲ 43.1
4~6	▲ 34.7	26.0	▲ 23.5	▲ 24.5	▲ 4.6	▲ 31.4
7~9	▲ 36.0	20.0	▲ 36.0	▲ 27.7	▲ 11.1	▲ 38.8
10~12	▲ 40.4	13.8	▲ 41.2	▲ 33.3	▲ 7.0	▲ 48.0
H25.1~3	▲ 33.3	2.0	▲ 30.0	▲ 32.7	▲ 13.6	▲ 28.0
4~6	▲ 21.6	16.3	▲ 34.7	▲ 23.9	▲ 2.3	▲ 28.0
7~9	▲ 19.7	30.6	▲ 26.0	▲ 19.2	▲ 6.9	▲ 20.0
10~12	▲ 23.5	36.7	▲ 22.9	▲ 12.8	▲ 4.7	▲ 24.0
H26.1~3見通し	▲ 28.6	33.4	▲ 31.9	▲ 21.8	▲ 5.0	▲ 29.2



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

・安い大型チェーン店ができてから、平日のお客さんが減少した。また、地元のお客様の単価が低下している。

## サービス業の景況

福井県立大学地域経済研究所が、昨年9月に実施した「サービス業実態調査」（回答企業数205社、理容業、美容業、クリーニング業、飲食業などサービス業関連の15業種を対象）によると、近年（過去3年間）、客数減などを背景に売上高が減少したと答えた企業が全体の3分の2にあたる63.9%に上り、厳しい経営環境にあるサービス業の実態を浮き彫りにする結果となった。また、こうした状況から、今後の経営についても「自分の代で事業を閉じる」と答えた企業が全体の29.3%を占めており、地域経済にとっては大きな不安を残すものとなっている。

こうした中で今回の景況調査をみると、県内のサービス業では、DI値6項目中3項目が改善、3項目で悪化を示すなど、項目間でその評価にバラツキがみられた。この要因は、前回に続き業種や業態、規模により景況感にバラツキが出ているためであろう。ちなみに、前期と今期を比較すると、売上高が▲19.7→▲23.5、仕入単価（逆指数）が30.6→36.7、採算が▲26.0→▲22.9、資金繰りが▲19.2→▲12.8）、従業員数が▲6.9→▲4.7、業況が▲20.0→▲24.0となっている。また、先行き（H26年1-3月期）については、仕入単価（逆指数）を除く5項目で悪化基調となっており、県内サービス業の景況感は、今後も厳しい状況が予想される。

一方、新規設備投資については、計画12.0%に対し実施が16.0%と、実施が計画を上回ったほか、先行き（H26年1-3月期）については、何らかの投資を計画している企業が11.8%みられ、引き続きそここの投資意欲が期待される。

最後に、経営上の問題点については、前回同様、「需要の停滞」への回答が、1位に指摘した企業ウエイト26.7%、1位～3位までに指摘した企業ウエイト48.9%と高い水準となっている。次いで、「店舗施設の狭隘・老朽化」への指摘が、1位に指摘した企業ウエイト15.6%、1位～3位までに指摘した企業ウエイト37.8%、「利用者ニーズの変化」への指摘が、1位に指摘した企業ウエイト15.6%、1位～3位までに指摘した企業ウエイト35.6%と続いている。その他、「材料仕入単価の上昇」を指摘する企業も、1位に指摘した企業ウエイト11.1%、1位～3位までに指摘した企業ウエイト31.1%みられる。

全国・福井景気動向 平成25年10月～12月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～-40	-40.1～-100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 20.2	34.5	▲ 28.1	▲ 18.4	▲ 2.2	▲ 22.5
	製造業						
	DI値	▲ 8.3	43.2	▲ 20.0	▲ 14.0	▲ 0.9	▲ 12.1
	建設業						
	DI値	10.0	46.6	▲ 12.5	▲ 5.0	1.0	1.8
	小売業						
	DI値	▲ 35.3	22.9	▲ 37.6	▲ 26.2	▲ 1.9	▲ 36.7
	サービス業						
	DI値	▲ 27.1	33.7	▲ 32.4	▲ 20.7	▲ 4.7	▲ 28.3
福井	全体						
	DI値	▲ 11.0	33.5	▲ 19.9	▲ 15.1	0.7	▲ 16.7
	製造業						
	DI値	18.4	41.2	▲ 7.9	▲ 2.6	5.5	7.9
	建設業						
	DI値	8.3	37.5	▲ 20.8	▲ 16.6	▲ 4.3	▲ 12.5
	小売業						
	DI値	▲ 23.5	23.6	▲ 25.5	▲ 26.0	4.4	▲ 30.0
サービス業							
DI値	▲ 23.5	36.7	▲ 22.9	▲ 12.8	▲ 4.7	▲ 24.0	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。